

# 第 1 問 答案用紙 < 1 >

## ( 会 計 学 )

### 問題 1

#### 問 1

	原料費	加工費
完成品原価	263,129,961 円	375,779,617 円

#### 問 2 製造工程を区分する基本的な考え方

(1)	合理的に原価管理を遂行するために、製造工程を区分するという考え方がある。すなわち、原価の発生に対する権限ないし責任を分割し、その範囲を明確にしておくことで、発生した原価数値を媒介とし、実際発生額と予定額の比較をし、作業能率の向上を図ることができる。
(2)	製品原価の計算を正確にするために、製造工程を区分するという考え方がある。すなわち、製造費用をより正確に製品に集計するために、資源の投入および利用関係を正確に追跡することが可能となる。

#### 問 3

	鑄造工程	機械加工工程	組立工程
工程完成品原価	426,958,370 円	544,134,244 円	641,709,595 円

#### 問 4 次工程以降の加工費配分額

9,561,557 円

#### 問 5 累加法による工程別総合原価計算の欠点

累加法により工程別総合原価計算をした場合には、原価の管理という点において欠点がある。すなわち、累加法では、先の工程から後の工程へと順次に原価が振替えられ、最終工程の作業を完了した製品の原価が累積的に算定されるため、製品の原価に対する各工程費の占める金額が不明となり、製品原価の変動要因を明確に把握できないという欠点がある。

# 第 1 問 答 案 用 紙 < 2 > ( 会 計 学 )

**問題 2**

問 1 製品 P の損益分岐点販売量 4,800 個

問 2 3 つの仮定・前提

1. 在庫の存在を仮定せず、生産したものはすべて販売されることを仮定している。
2. 将来に生ずる販売量や費用は、確実に予測できるという確定モデルに依拠している。
3. 生産量や販売量が増減しても、変動費率や価格は変わらないという線形性を仮定している。

問 3 3 つ以外の活動階層

1. 原材料等の購買・検収、保管、支払などの活動を調達物流活動という。ここでの原価は、原材料の調達に付随した活動として原材料の原価に含まれる。
2. 人事や従業員の福利厚生や医療などに係る活動を人事管理活動と呼ぶ。これは主活動を支援する活動の一つで、発生費用は製造原価には算入されず一営業費（一般管理費）として扱われる。

問 4 製品 P の 1 個当たり総原価 2,040 円

問 5 損益分岐点比率 87 %

問 6 製品 P の 1 個当たり予想営業利益 245 円

問 7 経営レバレッジ

経営レバレッジ係数			
当期	7.6	次期	2.6

企業体質の変化 海外製造企業に一部アウトソーシングを行うことによって固定費の負担が減少したため、自己の経営レバレッジ係数が減少している。そのため営業利益に関する変動リスクが若干低下し、景気変動に対して比較的安定的な企業に変わったと言える。

## 第 2 問 答 案 用 紙 < 1 > ( 会 計 学 )

問題 1

問 1

原価改善の定義
原価改善とは、製造段階でより低い標準原価で製造できるように製造方法や作業を工夫したり設計を見直したりすることをいう。
原価企画および原価維持との関係
原価企画は新製品開発のプロセスで、開発設計段階の初期に目標原価を設定して、目標原価を枠内で新製品を開発設計することであり、原価維持は目標原価の設定を通じて現場の作業を能率的に行わせることである。原価企画、原価改善、原価維持はお互いが相まって原価管理に資することから、密接不可分の関係にあるといえる。

問 2

25,920,000 円

問 3

63,840,000 円

問 4

段取替 1 回当たりの平均所要時間	14.4 分 / 回
生産管理部門に関する 1 台当たり標準配賦レート	1,177.5 円 / 台

問 5

( 貸与図 ) 方式
メリット
部品メーカーの有している技術力やノウハウを直接享受することができる。
デメリット
部品メーカーに依頼した箇所がブラックボックス化されてしまい、自社技術の蓄積がなされない。

## 第2問 答案用紙<2>

### (会 計 学)

#### 問題2

##### 問1

(単位：千円)

事業年度	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
正味キャッシュフロー	5,449	5,112	4,590	6,305

##### 問2

(単位：千円)

事業年度	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
減価償却費	18,750	7,031	2,637	1,582

##### 問3

(単位：千円)

事業年度	2011年4月1日	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
正味キャッシュフロー	-27,000	20,507	11,813	8,255	10,733

##### 問4

- (1)  2 端数処理の指示がないため、累積的回収期間、単純回収期間でも同じ結果となる年未満四捨五入で表示している。
- (2)

貨幣の時間価値を考慮していない
投資額回収後のキャッシュフローを無視している。

##### 問5

(1)	16,934	千円
(2)	14,937	千円
(3)	相互排他的	
(4)	1,997	千円
(5)	短	